

山田楽太鼓踊



文明17年、東郷12代重理と豊州島津忠兼が山田において戦ったことを基にして、当時の苦しみや領主が無事に帰ってくることを願って、唄い踊っていたものを、後には島津義弘公が朝鮮の役から凱旋してきたことを記念して踊っていたと云われている。

構成は、18人の大太鼓、2個の小太鼓（カラテコ）、10数個の鉦、鬼人舞では、鬼人役と役人役の2名が加わる。近年では太鼓16人、鉦10人、鬼人役、役人役を合わせた20数名で踊っている。

扮装は、大太鼓は腰中上着（ハッピ）に手脚絆白足袋、ワラジ、飾り笠を被り、矢旗を背負い、太鼓を首の前にくくりつけ、両バチで打つ。

鉦は、バッチ、ハッピ、白足袋、ワラジ、花笠を被り、片手に鉦を片手に撞木を持ち打つ。

鬼人役は、赤鬼面、乱れ髪カツラを被り、緋の着物に赤帯を締めて垂らす。素足にワラジを履き、右手で赤団扇を振る。

役人役は、後長髪のカツラ、白鉢巻、緋の着物、手甲脚半、黒足袋、ワラジ、腰に刀、白帯で締め右側に垂らす。

【奉納・披露】

日程：現在は活動休止中であるが、山田地区で行われる産業祭で披露予定

場所：旧山田小学校校庭